

環境モデル都市の追加選定について

内閣官房地域活性化統合事務局

温室効果ガスの大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする環境モデル都市を選定するため、昨年9月に提案の公募を行った結果、25件の提案があったところです。これらについて、環境モデル都市評価・調査検討会（座長：村上周三 一般社団法人建築環境・省エネルギー機構理事長）による評価等を経て、今般、選定対象を政府として決定しましたので、以下のとおりお知らせします。

1. 選定結果

■選定数:全7件

茨城県 つくば市
新潟県 新潟市(にいがたし)
岐阜県 御嵩町(みたけちょう)
兵庫県 神戸市(こうべし)
兵庫県 尼崎市(あまがさきし)
岡山県 西粟倉村(にしあわくらそん)
愛媛県 松山市(まつやまし)

2. その他

- 後日、選定証を交付する場を開催する予定です(別途お知らせします)。
- 選定都市の提案タイトル及び概要については別紙参照。
- 選定結果、選定プロセスの詳細等はホームページで公表いたします。

※URL:<http://ecomodelproject.go.jp/>

問い合わせ先:

内閣官房地域活性化統合事務局 担当:加藤、堤、和田
電話:03-5510-2199、FAX:03-3591-8801
E-mail:g.eco_model@cas.go.jp

環境モデル都市の追加選定結果

選定都市（政府決定）： 7都市

平成24年9月7日から10月19日まで募集した環境モデル都市提案について、環境モデル都市評価・調査検討会による評価等を行った結果、以下の7都市を環境モデル都市として選定することとしました。

選定都市名	タイトル	選定理由
茨城県 つくば市	つくば環境スタイル”SMILe”～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～	研究学園都市として、サイエンスと環境が融合するモデル性の高い提案である。国際発信や将来的には国内外への展開も期待できる。
新潟県 新潟市	「田園型環境都市にいがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～	都市と農村の連携を掲げた独自性の高い提案である。田園都市の視点は他都市への普及を考慮するうえでモデル性も高い。
岐阜県 御嵩町（みたけちょう）	地域資源（森林、公共交通、再生可能エネルギー等）を活かした低炭素コミュニティ「みたけ」の実現	森林マネジメント、交通対策を中心に実現可能性の高い提案である。地域でのエネルギーネットワークなど将来展開も期待できる。
兵庫県 神戸市	神戸市環境モデル都市	多岐にわたる先進的な取組を提示し、モデル地区から発展、展開させるモデル性の高い提案である。将来的に取組みの国際展開も期待できる。
兵庫県 尼崎市（あまがさきし）	「ECO未来都市あまがさき」へのチャレンジ	市民、地元産業界と一丸となり、環境と経済の両立を目指す、モデル性、実現可能性が高い提案である。産業構造システム、まちづくりへのさらなる展開が期待できる。
岡山県 西粟倉村（にしあわくらそん）	「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造	森林を活用したエネルギー供給、サプライチェーン構築、観光など意欲的な取組みを含む提案であり、小規模自治体のまちおこしとしてモデル性が高い。
愛媛県 松山市	環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」	サンシャインプロジェクトを中心とした実績に加え、コンパクトシティ、スマートコミュニティなどの地域展開を含む、モデル性、実現可能性の高い提案である。

環境モデル都市提案の概要

【茨城県 つくば市】つくば環境スタイル”SMILe”～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～

人口:21万人

我が国の約3分の1の国等の研究機関、多くの民間研究機関・企業が立地する国際研究開発拠点という特性を活かし、最先端のハイクオリティな低炭素都市を目指す提案。『コミュニティライフ』『モビリティ・交通』『最先端技術』『環境教育、実践』の4つの統合アプローチで、高齢者や子どもをはじめあらゆる層の人々が笑顔になる街の実現を目指す。オールつくばでの連携体制をベースに、人々の暮らし(特に、建築活動や移動)に起因するCO₂の重点的に削減するモデルの構築を図る。

【新潟県 新潟市】「田園型環境都市にいがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～

人口:81万人

新潟市の特徴である“田園”の持つポテンシャルを最大限活用し、都市と田園の『調和ある発展』と『豊かな価値の循環』による低炭素型都市づくりを目指す提案。大都市において、都市部と農村部との連携を前面に出した低炭素型都市モデルの構築は他に例がなく、先進事例としての波及効果が期待できる。「田園環境の保全・持続可能な利用」「スマートエネルギーシティの構築」「低炭素型交通への転換」「低炭素型ライフスタイルへの転換」の4つの方針による取組を推進することで「田園型環境都市にいがた」の実現を図る。

【岐阜県 御嵩町(みたけちょう)】

地域資源(森林、公共交通、再生可能エネルギー等)を活かした低炭素コミュニティ「みたけ」の実現

人口:1.9万人

中山道の宿場や希少動植物が生息する貴重な自然環境を有する里山のまちによる、森林を切り口とした提案。かつて「亜炭のまち」として日本のエネルギーを支えたまちは、現在深刻な廃坑陥没被害という課題を抱えており、この課題解決を図るなかで低炭素社会の形成を目指す。

「森林再生」「公共交通再生」「家庭活動」「廃坑の大規模陥没も想定した分散型エネルギーシフト」の4分野で取組を進める。

【兵庫県 神戸市】 神戸市環境モデル都市

人口:152万人

多様な地域特性やコンパクトな都市構造、六甲山の豊かな緑などといった特徴を活かした提案。都市空間そのものを低炭素型へと変革し、温室効果ガスの大幅な排出削減を目指す。森林、田園、市街地、港という全国の都市要素を備え、市内GDPは全国の約1%、CO₂の部門別排出割合も全国平均とほぼ同じであるなど、わが国の縮図のような都市であるため、神戸市での成功事例が全国のモデルとして波及することが期待できる。

【兵庫県 尼崎市(あまがさき)】「ECO 未来都市あまがさき」へのチャレンジ

人口:46万人

大阪湾岸・大阪市に隣接し古くから交通・運輸の要衝として栄えた、コンパクトな市域における産業機能・都市機能の集積を活かした提案。基礎素材型産業をはじめ最先端技術を有する企業が立地しており、グリーンイノベーションによって経済成長とCO₂削減の両立を目指す。過去、深刻な大気汚染や水質汚濁などを経験したが、産業界、市民、行政の努力により克服しており、その過程で生まれた市民の高い環境意識を背景に取組をすすめる。

【岡山県 西粟倉村(にしあわくらそん)】「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造

人口:1600人

村の面積の95%を占める森林の保全と活用の両立を目指す提案。ICTを活用し住民・役場・森林組合の協働で森林保全を進める「長期施業管理委託」や社会貢献ファンド産材の直販、都市との連携を推進する地域商社「(株)西粟倉・森の学校」など先駆的な取組が特徴。わが国の中山間地における低炭素地域モデルを目指す。

【愛媛県 松山市】環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」

人口:52万人

国内屈指の豊富な日射量(過去5年間の平均日照時間は約2090時間)を地域特性とし、太陽エネルギーをより有効に脱温暖化と産業創出に活かす「松山サンシャインプロジェクト」が特徴。「再生可能エネルギー」「ライフスタイル」「事業活動」「脱自動車依存型コンパクトシティ」「豊かな自然環境」「環境学習」の6つの基本施策により、持続可能な低炭素社会の構築を目指す。

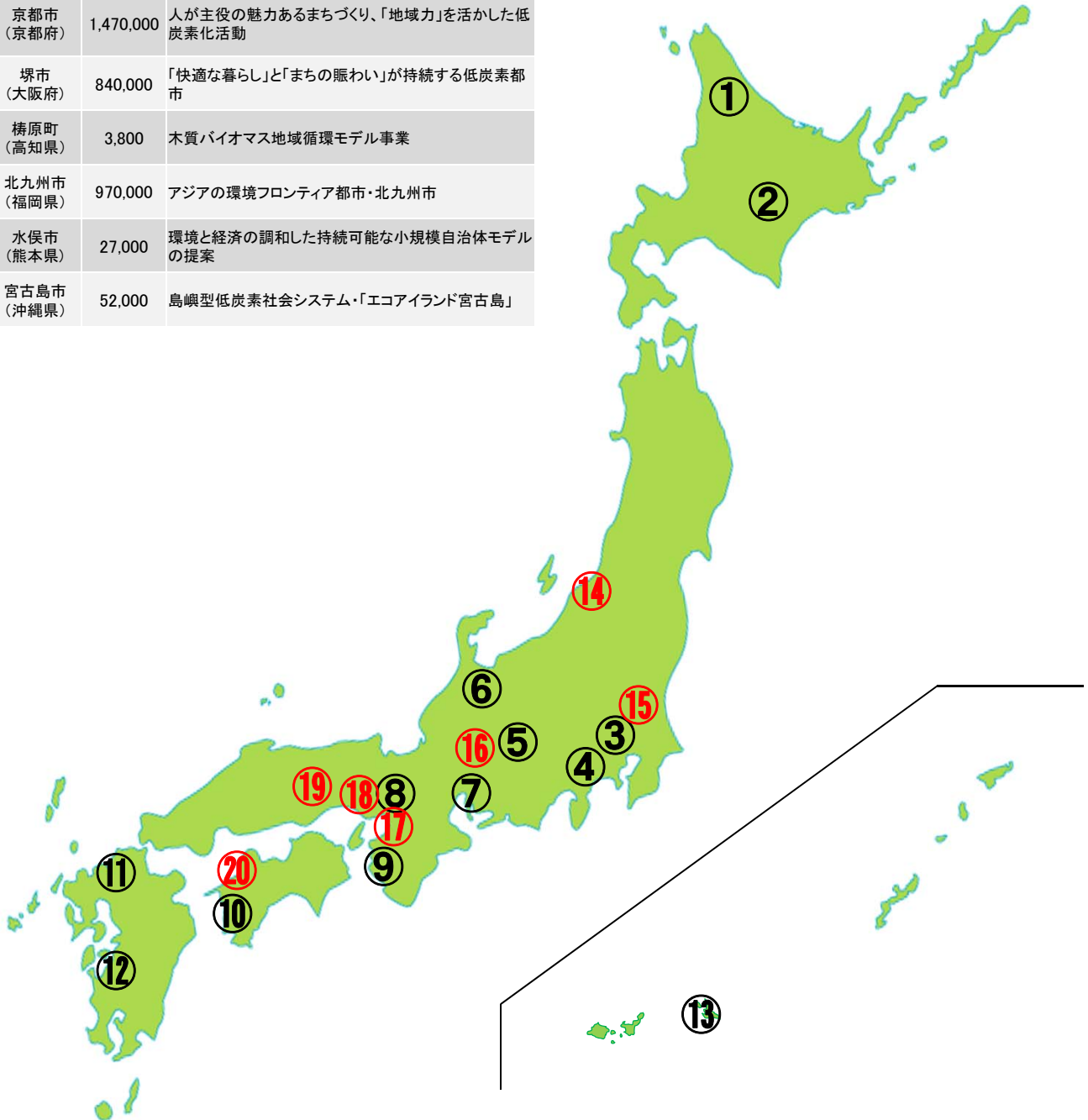
環境モデル都市 位置図

【平成20年度選定都市】

No.	市区町名	人口	取組概要
①	下川町 (北海道)	3,600	北の森林共生低炭素モデル社会・下川
②	帯広市 (北海道)	168,000	田園環境モデル都市・おびひろ
③	千代田区 (東京都)	50,000	省エネ型都市づくり、エネルギー効率向上
④	横浜市 (神奈川県)	3,690,000	横浜スマートシティプロジェクトの展開
⑤	飯田市 (長野県)	103,000	市民参加による自然エネルギー導入、低炭素街づくり
⑥	富山市 (富山県)	420,000	富山市コンパクトシティ戦略によるCO2削減計画
⑦	豊田市 (愛知県)	420,000	次世代エネルギーとモビリティを活用した低炭素まちづくり
⑧	京都市 (京都府)	1,470,000	人が主役の魅力あるまちづくり、「地域力」を活かした低炭素化活動
⑨	堺市 (大阪府)	840,000	「快適な暮らし」と「まちの賑わい」が持続する低炭素都市
⑩	梶原町 (高知県)	3,800	木質バイオマス地域循環モデル事業
⑪	北九州市 (福岡県)	970,000	アジアの環境フロンティア都市・北九州市
⑫	水俣市 (熊本県)	27,000	環境と経済の調和した持続可能な小規模自治体モデルの提案
⑬	宮古島市 (沖縄県)	52,000	島嶼型低炭素社会システム・「エコアイランド宮古島」

【平成24年度選定都市】

No.	市区町名	人口	取組概要
⑭	新潟市 (新潟県)	808,000	「田園型環境都市にいがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～
⑮	つくば市 (茨城県)	217,000	つくば環境スタイル“SMILe”～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～
⑯	御嵩町 (岐阜県)	19,000	地域資源(森林、公共交通、再生可能エネルギー等)を活かした低炭素コミュニティ「みたけ」の実現
⑰	尼崎市 (兵庫県)	451,000	「ECO未来都市あまがさき」へのチャレンジ
⑱	神戸市 (兵庫県)	1,542,000	神戸市環境モデル都市
⑲	西粟倉村 (岡山県)	1,600	「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造
⑳	松山市 (愛媛県)	513,000	環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」



「環境モデル都市」について

概要

- 我が国を低炭素社会に転換していくため、温室効果ガスの大幅削減など**高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市**を「環境モデル都市」として選定・支援し、**未来の低炭素都市像を提示**
※環境モデル都市選定の視点・基準 ①大幅な削減目標、②先導性・モデル性、③地域に適応、④実現可能性、⑤取組が持続的
- 地域資源を最大限に活用し、**低炭素化と持続的発展を両立する地域モデルの実現**を先導
- 高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市・地域として政府が認定するものであり、政府として国内外に広くPRしていくことで**都市の認知度・イメージアップ**を図る。
- 国は計画に対する毎年のフォローアップ時に、**有識者による専門的知見にもとづいたアドバイス**等の支援を行う。

経緯

- 第169回国会における福田内閣総理大臣施政方針演説（平成20年1月18日）を受け、平成20年4月11日から5月21日まで募集し、多様な都市・地域から82件（89団体）の応募あり

➡ **環境モデル都市として、13都市を選定**（総理大臣決裁で選定）

大都市 北九州市、京都市、堺市、横浜市

小規模市町村 下川町、水俣市、宮古島市、ゆすはら橋原町

地方中心都市 飯田市、帯広市、富山市、豊田市

東京特別区 千代田区

- 各環境モデル都市は、目標達成に向けた具体的な行動計画（アクションプラン）公表（平成21年4月）

「環境モデル都市」のイメージ

コンパクトシティ化、交通体系の整備、居住スタイルの変革、再生可能エネルギー普及、森林の保全と活用 など

都市内で統合的に実現

地域において、ライフスタイルやビジネススタイルの転換など**社会変革に向けたうねり**を起し、**地域の活力を創出**



環境モデル都市の追加選定推薦について

『環境モデル都市評価・調査検討会』

選定基準の運用方針や選定の手続き、申請に対する評価、選定後のフォローアップ等に関しご意見を伺う。

伊香賀 俊治 慶應義塾大学教授

石田 東生 筑波大学大学院教授

枝廣 淳子 有限会社イーズ代表

柏木 孝夫 東京工業大学特命教授

藤田 壮 独立行政法人国立環境研究所環境都市研究プログラム統括

梶本 晃章 社団法人日本動力協会会長

◎ 村上 周三 一般社団法人建築環境・省エネルギー機構理事長

薬師寺 泰蔵 慶應義塾大学名誉教授

◎ … 座長